

参加方法

コロナウイルス感染対策のため、申し込み方式とさせていただきます。

【申し込み方法】

- ① Google フォームから <https://forms.gle/n97coiQLJGzHKU7M8>
② FAX から 03-5286-3624 (村田研究室)
- 氏名、参加方法 (来場 / オンライン)、電話番号、メールアドレスをお書きください。



参加にあたってのお願い

- ・感染状況によっては、完全オンライン実施とさせていただきます。
- ・対面参加が締め切りとなった場合は、オンライン参加とさせていただきます。
- ・コロナ感染対策に留意してご参加ください。
- ・当日は記録用に録画、写真撮影をさせていただきます。
- ・飲料、昼食は各自ご用意ください。

会場案内

【会場】 早稲田大学文学学術院
戸山キャンパス 33 号館 3階 第 1 会議室

- ・ JR 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分
- ・ 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分
- ・ 地下鉄東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩 3 分
- ・ 副都心線 西早稲田駅から徒歩 12 分
- ・ 学バ 高田馬場駅一早大正門 馬場下町バス停



60 周年 / 90 周年資料

『自由大学と現代—自由大運動六〇周年集会報告集—』

編集 自由大学研究会 / 発行 信州白樺

『自由大学運動 60 周年記念誌 自由大学研究別冊2』

編集・発行 自由大学研究会

『自由大学運動の遺産と継承－90周年記念集会の報告－』

編集・発行 大槻宏樹・長島伸一・村田晶子 / 発行 前野書店

【東京集会発起人】

新井浩子、飯塚哲子、大槻宏樹、斎藤俊江、清水迪夫、林茂伸、
平川景子、藤田秀雄、古市将樹、村田晶子、柳沢昌一、米山光儀

【主催】

自由大学運動 100 周年記念集会東京集会実行委員会

【後援】

日本社会教育学会 / 早稲田大学文学学術院教育学会 / 明治大学社会教育主事課程

本研究は、2022 年度早稲田大学教育総合研究所公募研究の助成を受けた。

課題番号「B-10 学習の自由と主体の形成—自由大学 100 周年を記念して—」

【お問い合わせ先】

早稲田大学文学学術院 村田晶子 <akikom@waseda.jp>

表紙の画像は、佐々木忠綱氏のノート「哲学史概説」の写しである。

上田集会

自由大学運動 100 年 記念フォーラム

2022 年 11 月 13 日 (日)

9:20 ~ 16:30

会場：上田商工会議所 5階ホール

《お問い合わせ先：村山隆（090-7189-0375）》

自由大学運動
100 周年
記念集会

東京集会

2022年10月30日（日）10:00～17:00〈受付9:00～〉

早稲田大学文学学術院 33 号館 3 階第 1 会議室（戸山キャンパス）

民衆の感じる痛みに
応えようとして生まれた自由大学を
いま 考える

参加費
無料

ごあいさつ

自由大学運動は100周年目の節目の年輪を刻むことになりました。自由大学は1921年7月に「信濃自由大学趣意書」を宣言し、同年11月に信濃自由大学（のち上田自由大学）第1期第1回講座が開校されて産声をあげました。趣意書の冒頭は「学問の中央集権的傾向を打破し（後略）」と謳っています。

自由大学運動は、眼前にひろがる不自由、格差、係争、不平等に立ち向かい、世の中を、教育を、身のまわりを、自分たちを、少しでも良く変化させようとした民衆の自己教育運動でありました。

皮肉にも、人類が求めてきた文明は、いま逆に自然破壊、人間破壊の危機を迎えようとしています。こうしたなか、人間が人間らしく生きるため、労働と教育の結合を芯としながら、働きながら学ぶ民衆のための自由大学の心棒を支え合うときがきました。民衆の感じる痛みに応えようとして生まれた自由大学運動の歩みを確かめるために、100周年を機に、いま学び合いましょう。いま語り合いましょう。（大槻宏樹）

プログラム

【午前司会】 飯塚哲子（東京都立大学准教授）／平川景子（明治大学教授）

10:00 開会
開会の挨拶 大槻宏樹（早稲田大学名誉教授）
10:15 「自由大学理解のために」 片岡了（明治大学講師）

I 基調報告

10:30 「自由大学100周年の意義」 長島伸一（長野大学名誉教授）

11:40 ～昼食休憩～

【午後司会】 片岡了（明治大学講師）／村田晶子（早稲田大学教授）

II 学問の自由と主体形成

12:30 「省察的民主主義（Reflective Democracy）への企図としての自由大学運動」 柳沢昌一（福井大学教授）
13:10 「伊那自由大学とはなにか」 清水迪夫（飯田市歴史研究所市民研究員）
13:40 「阿智自由大学の現状と課題」 林茂伸（阿智自由大学運営委員会代表）
14:10 「自由大学から現在の大学を問い直す」 古市将樹（常葉大学准教授）
14:40 ～休憩～
14:55 「学びの場のつくりかた 一大正期の上田自由大学を中心に」 渡辺典子（日本女子大学、武蔵野美術大学講師）
15:25 「自由大学の影響を考える ー林源と勤労青少年教育ー」 米山光儀（田園調布学園大学教授・慶應義塾大学名誉教授）
15:55 「自由大学研究への期待」 大槻宏樹（早稲田大学名誉教授）

III 質疑応答

16:25 質疑応答
17:00 閉会
閉会の挨拶 藤田秀雄（立正大学名誉教授）

自由大学へ

土田杏村

（一）

自由大学の會員諸君！悦べ、僕達の雑誌が出来た。恒藤君が自由大学という正體の知れないものの蓋を始め、て上田で開けたのが大正十年の十一月、さうだ、自由大学の歴史にもそれからもう四週期が来た。そして此の四週期の歴史を記念するかのやうに、始めて僕達の雑誌が生れたのだ。日本で最初のプロレットカルの雑誌だ。成人教育の機關雑誌だ。此處は僕達の交誼場だ。科外研究室だ。そしてまた僕達と同じ様な爲事を此れから日本の何處かで始めようとする未知の友人達との交情俱樂部でもある。

此の雑誌の誕生と共に、僕は三番叟の論文が、其れさう「床の間」論文といふ讀んでも讀まないでもよい飾りを書く事に、會から規定せられて居た。けれどももう其の三番叟論文は大概でよいといふ氣がする。自由大学の趣旨を、僕は此れまで何度書いたか知れない。其れを知りたいものは何れかの自由大学から發行せられて居るパンフレットを見てくれ給へ。また本誌を此の創刊號だけ見る者もなからうから、僕達のやつて居る事の報告が誌上に現れる時、其れで自然に知つてくれ給へ。雑誌の「自由大学」には、また其れに特有の爲事がある。

タカラ・テル——「承知の方もいるかも知れませんが、私は九〇歳をこしておりまして、今日、こられるかどうかということが大変な問題でして、主治医から医者がついていけば行つてもよろしいと許して貰ったので、幸い娘が医者をして下さるのでそれを連れて、来たような次第でして、来るのがやつとこさでしたから、みなさんにお話ができるような準備を何もしておりません。ほんのわずかの感想だけを申し上げます。

およそ六〇年前になりますね。私のこの地方にまいりまして、偶然といふものでしょう、この地方で自由大学運動がおきておったのですから、その人たちと親しくなつて自由大学と関係するようになりました。私は自由大学から頼まれて教える役割をしたんですが、実際は自由大学から教わつたんです。特に自由大学の會員である農民・労働者、その人たちから非常に大きな影響を受けて、私のものの見方というのがだんだんですけれども根本的に変わりました。もしここで私の

ものの見方が変わらなかつたなら、私は、ある學問をやる人間のひとりとしてか、または作家のひとりとして一生を送つただけであります。ところが、自由大学を通じて、この地方の勤労者である労働者・農民その他の人々と直にふれあふことをつうじて、非常に影響を受けて、私のものの見方が根本的に変わつてしまつたんです。そして、あらためて社会運動の方へゆつくりと進むことになりました。社会運動の方向へ進むようになりましてからは、いままで一貫してその道をたどつてまいりました。だから私は、教えるに來たんですけれども、実は自由大学から教わつたんです。私のすべての根本的なものの見方、考え方の發展は、自由大学のおかげでした。自由大学の會員である労働者・農民のみなさんから教育されて、自分の進む道を見だし、一生それを貫いたということになっております。